

春の訪れとともに桜の便りが聞こえています。四月八日には、お釈迦さまの誕生日を祝う「花まつり」が全国各地で行われます。お釈迦さまに甘茶を灌ぐことから「灌仏会」(かんぶつえ)ともいわれています。お釈迦さまはインドのルンビニーの園というところでお生まれになられ、すぐに七歩歩かれ天地を指して『天上天下唯我独尊(てんじょうてんげゆいがどくそん)』とおっしゃられたというお話は有名です。そのとき、天より清らかな甘い雨が降りそそぎ、身体を清められたということから甘茶をかけるようになつたといわれています。

『天上天下唯我独尊』、この言葉はさまざまな解釈がなされます。お釈迦さまは、「この地球上に私たちがこうして生命(いのち)を受けたということは、なんと尊いことなのでしょうか。私たちひとりひとりの生命というものは、いかなる人種であってもいかなる境遇であっても等しく尊いものなのです。生命に勝る尊いものは他にないのですよ」とおっしゃられています。

私たちはとかく、人の価値や人の尊さを、外見や学歴、財産や地位などで決めがちです。また一方では、それらのものはいつまでも常ではないという不安を抱えながら日々生きています。しかし、そんなことではなく一人一人がお互いを認め合い、すべての人の存在を尊び、人間一人一人の生命を育み合うことの必要性を、お釈迦さまはお教えになられました。

物質的なモノにだけ価値を求める現代社会。生きていることがあたりまえ、他の世話になることなど何もない、自分独りで生きているのだと、傲慢な人々が蔓延っています。今一度お釈迦さまのおっしゃられた『天上天下唯我独尊』、地球上の生命の尊さ、自然の中に生かされて生きているという謙虚さを認識し、すべての生命を生かし合う、お釈迦さまのお教えを基本とする安穏な社会を私たちの手で創らなければなりません。

